



～希望のつくりかた～

東日本大震災から10年 東日本大震災から学ぶ

「震災を学ぶ編」と、「未来を紡ぐ編」の2回の連続講座

災害は誰にとっても「恐怖」です。できれば、考えたくないことかもしれません。しかし、自分自身にいつ降りかかって来てもおかしくないのが現実です。私たちに必要なのは、災害を無闇に怖がったり、目をそらすことなく、災害と向き合いつつ、学ぶことではないかと思います。

今回の講座では、「災害直後のこと」ばかりではなく、「もう少し長いその後」に注目します。震災後、人々はどう希望をつくってきたのでしょうか。起こってしまった出来事に悲嘆するだけでなく、震災も包括して未来の希望をつくるために奔走してきた人たちに会おう講座です。

希望をつくってきた講師との出会いを通して、「災害とは?」「まちづくりとは?」について一緒に考えましょう。

実施日時: ●1日目「震災を学ぶ編 ～震災を“学ぶ”ことは“生きる”を知ること」
2021年9月11日(土) 12:40～15:30

●2日目「未来を紡ぐ編 ～雄勝町で生まれた新しい故郷のカタチ」
2021年9月17日(金) 13:00～16:40

実施形式: 対面形式(予定) 石巻市とはオンラインで中継

※オンラインでも参加可能です。片方だけの参加を希望される方はご相談ください

場所: 21号館402教室(深草キャンパス)

定員・参加費: 20名 ※定員になり次第締め切り 参加費: 無料

詳細・申込みについて

★申し込み方法はこちら⇒



●参加対象者

本学の学部生で、両日ともに参加可能な方

もう少し詳しく中身が見たい方はセンターHPをご覧ください <https://www.ryukoku.ac.jp/npo>

★申し込みフォームから申込できない場合は、以下のメールアドレス宛に、「希望のつくりかた・参加申し込み」という件名で、メールを送信していただくか、センター窓口までお越しください。



HP

★問い合わせ先: ボランティア・NPO活動センター

メールアドレス E-mail: ryuvnc@ad.ryukoku.ac.jp (深草・瀬田の共通アドレスです)

電話: 075-645-2047(深草) ※土日祝及び夏期一斉休暇中(8/11～8/18)は電話対応できません

1日目「震災を学ぶ編 ～震災を“学ぶ”ことは“生きる”を知ること」 大川小学校とライブ中継

「大川小学校」は、河口から約5キロの距離にありますが、新北上川を遡上した東日本大震災に伴う津波に襲われ、児童74名、教職員10名、スクールバスの運転手が犠牲となりました。学校の管理下にある子どもが犠牲になった事件・事故としては戦後最悪の惨事です。2016年に震災遺構として残すことが決定し、2021年7月から再び公開が始まり、敷地内に「大川震災伝承館」も併設されています。龍谷大学では、2012年から毎年大川小学校を訪れています。今年は、「大川伝承の会」の協力で、大川小学校からライブ中継を行います。(雨天の場合変更あり)



鈴木典行(すずき・のりゆき)さん

大川伝承の会 共同代表

震災の時に小学校6年生の次女・真衣さんが大川小学校で犠牲となった。震災後、遺族を中心にして立ち上げた「小さな命の意味を考える会」や大川小学校を学区としていた地域の方々と「大川伝承の会」を立ち上げ伝承活動に携わっている。

今年の6月19日(土)には、聖火ランナーとして真衣さんの名札を胸に走った。

2日目「未来を紡ぐ編 ～雄勝町で生まれた新しい故郷のカタチ」 石巻市雄勝町とライブ中継

石巻市雄勝町は、龍谷大学が東日本大震災復興支援ボランティアとして、2011年～2019年まで通っていた町です。雄勝町を襲った津波は10mを越えており、海辺にあった町は壊滅的な状況になりました。ある番組で「消えゆくまち」と表現されたこともあります。このような状況下で、人々は未来を紡ぐために、様々な取り組みを行っています。そのキーパーソンの人たちにご登場いただいて、いろいろとお話を伺います。



徳水利枝さん(とくみず・りえ)さん

一般社団法人雄勝花物語 代表理事

宮城県石巻市雄勝町出身。雄勝町で個人塾を経営していたが、震災以降は、「花と緑の力で」を合言葉に復興プロジェクト「雄勝花物語」を立ち上げる。「人と繋がり希望を紡ぐ」をモットーに、地元住民や多くのボランティアとともに「雄勝ローズファクトリーガーデン」を運営。その様子は「奇跡のガーデン・雄勝花物語」として、NHK総合テレビのドキュメンタリー番組で取り上げられるなど、多くのメディアから注目されている。「人と繋がり希望を紡ぐ」をモットーに、持続可能なまちづくり、地元での雇用創出を目指し、雄勝花物語は現在も進行中。



鈴木拓也さん(すずき・たくや)さん

ウズマキ眼鏡珈琲店 店主

宮城県石巻市出身。震災直後はがれき処理の仕事に従事し、その後、雄勝地区復興応援隊に加入。雄勝町でコミュニティカフェの運営と地域情報誌の制作に携わる。復興応援隊の活動を通して雄勝が大好きになり、震災を風化させないためにも、このまちのことを伝える・語り合える場所をつくりたいと、2020年7月に雄勝観光物産交流館内に「ウズマキ眼鏡珈琲店」をスタート。店内は、地域の人が集まりやすい雰囲気大切に、ゆくゆくは地元産のものを増やして、店内を「雄勝のショールーム」化の計画も。若い世代を中心とし、地域のために活動する団体「雄和堂(ゆうわどう)」を立ち上げる準備をしている。



阿部久良さん(あべ・ひさよし)さん

雄勝町渚泊推進協議会 代表

宮城県石巻市雄勝町出身。地元でホタテ養殖業を営むも、震災で養殖業を廃業し、現在は一般社団法人Calm Styleや渚泊推進協議会の代表として、地域の活性化に力を注いでいる。同協議会は、雄勝観光物産交流館内に、雄勝の手作りグッズを販売するお店と雄勝の魅力の発信拠点として「渚泊Station」を開設した。また、雄勝町の旅行やレジャーに関する情報を発信するHPサイト「おがつたび」を開設。